



## Sustainable Cities & Communities from KUSHとは

金沢大学附属高校では、2年生が「総合的な探究の時間」にグローバル課題研究と題し、“Sustainable Cities & Communities”（持続可能な社会と共同体）というテーマのもと探究活動を行っています。

歴史・文化、地域振興、経済、防災、環境、生活、NJC（シンガポールのNational Junior Collegeとの共同研究）の7つのゼミに分かれてそれぞれに研究を進めています。この記事は探究活動の様子やグローバル課題研究を多くの人に発信していくためのものです。

## ◆◇73回生の研究発信◆◇

今回は経済ゼミから、高村修生さんの昆虫食の普及に関する研究です。高村さんはタンパク質危機という観点から昆虫食に着目し研究を進めています。

## ◆◇昆虫食のこれからについて◆◇

今日、欧米を中心に「タンパク質危機」が注目を集めています。これは、早ければ5～10年後にタンパク質の需要量が供給量を上回り、深刻なタンパク質不足が起こると言われている予測のことです。そこで必要になってくるのが昆虫食をはじめとする代替肉です。これらのタンパク質は現在の農業、畜産業によって生産される動物肉よりも、効率的にタンパク質を生産することができ、種類によっては家畜を育てる以上に環境に優しいと言われています。

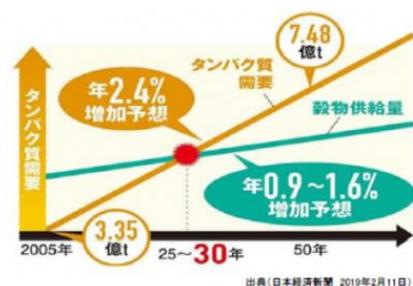
昆虫食の通販を行う会社“BugsFarm”によると、従来の鳥や豚、牛などの肉類と同じ量の昆虫肉を生産する時、排出する温室効果ガスの量が300～2,850分の1、飼料は2～6分の1、土地は3～14分の1、水の量に至っては

2,300～22,000分の1で済みます。また、1kg当たりの栄養価も高く、食料としても動物肉より優れていると言えます。飼料も特別なものを用意する必要がなく、余った食品なども使えるので、食品ロスの解決にもつながると考えられるでしょう。このように様々なメリットがある昆虫食ですが、海外では注目され人気を集め始めている一方、日本ではほとんど普及していません。その理由として、昆虫食に対する固定観念や嫌悪感を持つ人々が多いことが考えられます。こういった人々の価値観を払拭しない限り昆虫食は普及しないと考えられます。そこで僕は「昆虫食に対する固定観念や嫌悪感の払拭」を目指し研究を進めてきました。

人々の価値観は短時間で変わるものではなく、大手企業などの影響力が必要であることが考えられます。しかし、昆虫食業界は消費者にほとんど受け入れられておらず、参入にはリスクが高すぎる業界です。一方で、昆虫食の製造販売を行う小企業では影響力が小さく、価値観の変容にはつなげることができません。そこで、大手企業と小企業の一時的な提携が最良の方法ではないかと考えました。これにより大手企業は新しい業界に参入することができ、将来のタンパク質危機に備え足場を組むことができます。小企業は大手企業のネットワークを利用して製造販売を円滑に行うことができ、さらに大手企業の名があることで売り上げも期待できます。このような提携に先立って昆虫食への潤滑な移行を促進するため、大手食品メーカーと昆虫食業界に参入した小企業との交流会を提案します。

### 【URL】

昆虫食通販バグズファーム <https://bugsfarm.jp/>  
日本経済新聞 2019/2/11 <https://s.nikkei.com/3jh1BQk>



生徒会公式Twitterではホームページの更新情報を発信しています。是非フォローお願いします！

生徒会公式Twitter [https://twitter.com/kfshs\\_souncil](https://twitter.com/kfshs_souncil)

“Sustainable Cities & Communities from KUSH” 及び “Daily Life at Fuzoku” のフィードバックにご協力をお願いします。

以下のリンクもしくは右のQRコードからGoogleフォームでの回答をお願いします。よろしくお願いします。

Googleフォーム <https://forms.gle/5PUMWKHgDA9CyD3b9>

